



① 子宮頸がんとは、どんな病気？

膣の奥にある子宮の入り口(頸部)にできる癌を「子宮頸がん」と言います。50歳以下の女性に最も多くみられる悪性腫瘍です。初期ではほとんど自覚症状がありませんが、癌が進行すると不正性器出血や性交渉時の出血などの症状がみられることがあります。

子宮頸がんは、定期的な検診で発見することが可能です。前癌病変で発見し、切除するなど治療を行えば、ほぼ100%完治します。また子宮を温存することも可能なため、その後の妊娠・出産も可能です。

原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)と言われています。このウイルスはとてもありふれた存在で、性交渉の経験のある女性であればほとんどの人が感染しています。また分娩の際にすでに母子感染しているという報告もあり、性交渉が未経験であっても感染している場合があります。

多くのウイルスは、免疫力によって体内から自然に排除されます。しかし何らかの理由によってウイルスに持続感染した場合、長い年月(10-20年)をかけ、子宮頸がんへと進行することがあります。

②ヒトパピローマウイルス(HPV)とは？

HPV は皮膚や粘膜に感染しイボを作るウイルスで、70種類以上のタイプがあります。このうち HPV16・18・52・58型など約15種類は子宮頸がんの原因となることが多いため、発がん性 HPV と呼ばれています。発ガン性 HPV に感染しても90%以上は自然消滅します。ウイルスを排除できずに持続感染した場合、子宮頸部の細胞に異常な変化(異形成)を起こしますが、軽度であればウイルスも異形成細胞も免疫の力により排除されるため、実際癌に進展するのはわずかです。

☆日本人の子宮頸がんの原因は、HPV52・58型が比較的多く、HPV16・18型は全体の60%。現在使用されているワクチンは、海外で多い HPV16・18型をターゲットとして製造された輸入ワクチンです。

③子宮頸がんワクチンの基礎

☆ワクチンとは・・・弱めたウイルスやウイルスの死骸を注射することにより、体に抵抗力をつけそのウイルスによる病気を予防できるとされています。

☆成分は・・・・・・ヒトパピローマウイルス(HPV)の殻(抗原)が主成分ですが、体内で長時間効果を持続させるため、アジュバント(水酸化アルミニウムやMPLからなる添加物)に主成分を入れてあります。この MPL は国内では初めて添加される成分です。

☆ワクチンは何回接種するの？・・・・6ヶ月の間に3回接種します。製品としては、サーバリックスとガーダシルの2種類があります。

④子宮頸がんワクチンの副作用

接種直後の軽い副反応・・・・痛み99%・赤み・腫れは79%以上、直後の失神・けいれん・呼吸困難(一時的)などがあります。慢性的なものとして脳神経障害、自己免疫疾患など

☆海外の副作用報告・・・・・・アメリカのワクチン有害事象報告制度『VAERS』によると、『ガーダシル』『サーバリックス』の両ワクチンによる副反応被害者数は全世界で2万8千661人。死亡者数は130人にのぼっている。

☆日本における副作用報告・・・・・・「サーバリックス」を2012年までの3年間に接種した延べ684万4,000人のうち、その0.014%にあたる、984人に副作用があったことが報告された。失神が多いが、重篤なケースも88件報告され、その中には、死亡例も1件含まれている。重篤な副作用は、脳神経障害(てんかん発作・まひ・意



識障害など)と、自己免疫性疾患(若年性リウマチ・全身性紅班性狼瘡:SLEなど)

SLEには以下のように多くの症状が含まれます。

<発熱、全身倦怠、関節炎、筋痛、光線過敏症、蝶形紅斑、落屑を伴う皮疹(紅班)、脱毛、ループス腎炎、精神症状(意識障害、てんかん、けいれん、うつ病)、心のう液貯留、心筋炎、胸膜炎(胸水貯留)、肺臓炎、消化器症状(心窩部不快感、悪心、下痢)、肝炎、リンパ節腫脹、血小板減少症、抗りん脂質抗体症候群(習慣性流産、深部静脈血栓症)>

この原因としては、アジュバントを含む強力な抗原が長期に渡り生体を刺激し続けることで、もともと均衡を保っていた免疫システムが破綻し、自己を攻撃して炎症を起こしたり、過度の反応を起こすためとの研究報告があります。以上について詳しくはこちらです:<http://satouclk.jp/cat11/>

⑤無料なら接種したほうがお得???

実際にはワクチンは一回 1万5000円、3回接種で4万5000円かかりますが、2103年段階では多くの自治体で定期接種(市など自治体で全額または一部負担)としていたため、無料で接種できるなら・・・とよく考えず接種してしまうことが多かったようです。その後持続的な疼痛など副作用報告が相次ぎ、現在、厚生省は「定期接種を積極的に勧奨すべきではない」という立場をとっています。

⑥ポイント

サーバリックス(ワクチン)添付文書には「効能・効果に関連する接種上の注意」として…………

- (1) HPV-16型及び18型以外の癌原性 HPV 感染に起因する子宮頸がん及びその前駆病変の予防効果は確認されていない
 - (2) 接種時に感染が成立している HPV の排除及びすでに生じている HPV 関連の病変の進行予防効果は期待できない
 - (3) 本剤の接種は定期的な子宮頸がん検診のかわりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸がん検診の受診や HPV への暴露、性感染症に対し注意することが重要である。
 - (4) 本剤の予防効果の持続期間は確立していない
- ……………と明記しています。



- つまり(1)→15種ある発がん性 HPV のうち2種類の型にしか効果がない
- (2)→過去に感染した HPV を排除はできない
- (3)→そもそも子宮頸がんの誘因として、喫煙・ピルの服用・性交渉・他の性感染症……等もありワクチンは発がんを阻止できるものではない。
- (4)→3回接種で効果が続くのは平均 5.4 年(サーバリックス患者向け説明書より)で長期の効果は不明です。
- このようなことをよく理解し、子供さんやご自分に、このワクチンが必要か?と考えてみましょう。

⑦接種する際の注意は

- ・発熱・かぜ・生理痛・下痢など体調が万全でないときは避ける。
 - ・インフルエンザなど、他のワクチンとの間隔は十分あける。また同時に接種しない。
 - ・1度目の接種で、失神、疲労感・筋痛などがあつた場合、2度目以降は接種しない。
- など医師の意見も伺いながらご自分で判断してください。



参考:ステッドマン医学大辞典・さとう内科循環器科医院HP・グラクソスミスクライン資料・Thinker ほか

徳武さおり 吉田宗生 2016.6 改訂版